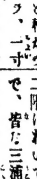
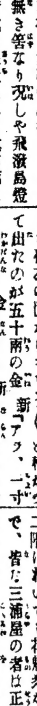


明治四十二年 紀元二千五百七十五年  
 本紙 一、枕金二錢、一ヶ月前金拾五  
 定價 一、枕金二錢、一ヶ月前金拾五  
 金貳圓、郵配一ヶ月十三錢  
 月曜日及び大祭日の翌日は休刊、日刊  
 廣告 一、五銭活字七字、贈一行、函金  
 料金 五十銭、報知特約廣告五銭、送  
 字七字、贈一行、金十五銭  
 發行所編輯人 高木久馬 本  
 印刷人 松久神戶 每  
 京城西區小門通電話六三〇  
**發行所 京城新報社**

報 界

の趨勢を窺ひしより、我が邦に此一事の  
妙策を講じしむるに似たり。此一事は  
同帝が英帝大尉の驛に從ふ佛國外相と  
シヨン氏に就みたる歐洲の平和同盟  
シヨンの言説に就するも明にして同帝は  
現時如何に佛國の歡心を得るに急な  
るかを知らずと得べしと想せざる。然れ  
ども獨逸は國際上依然として獨立の狀  
態を脱する能はずるべきは勿論、彼の三  
國同盟の如きも將來至大の妨害あるべ  
しとも傳せられざるに歐洲に於ける英  
佛露と東洋の日本とは或は同盟に成は  
ば協約に親善密接の關係を加へれば此  
如何等榮々しく國際なかるべしと云ふ

以上で、不吉の事態に陥つた船長は、  
船の範囲狭き場所には夫相應の燈標を  
おびてするとは、苟も海軍の心得ある者の  
あらざることを無き等なり況して旗舞島燈  
臺の如きは新式の裝置にして旗舞島に  
出入りする者に資する大なるとは一般航  
行者の常に驚むる所なると今最も大同  
に入入する船舶は近年急進の進步を  
と見ゆて直ぐに酒肴を取寄せ花魁對面  
一杯飲まうとしてゐるところへ邂逅  
と乗が参り其の邊を一す片附けやうとす  
る夜衣の間からゴックンと嘔がつ  
て出たのが五十兩の金、斷ア一、一寸  
ど、皆だ三浦屋の者は正直な丁儻の者  
と若旦那、金阿だわ、新御覽なんぞ  
こんな處からた金子が五十兩づつて  
出ました、金エツ、金子が紛失したら  
かへ給ひて居るに進みがないと考へま  
した、何か、何所からだした、金一成ほど傳粉れて居るものは今



島重治  
京城新報第四百五十三號寄書欄に潮州  
九乘組員なる名を以て韓國燈臺の不取  
締なる記事あり要は二三燈臺の光力頗  
ぶる微弱なるものあり必記燈臺看守の

怠慢に歸因するものなりとの意なるが如し

抑韓國に燈臺建設の事起りしは極めて近來の事にして今日の如き船舶交通の情態に伴ふには少數の光力過大なる燈

臺を設けんよりは事ろ標識とするに差  
 閏なう程度のものを一個たりとも餘分  
 に配置するの必要あり故に既設燈臺數  
 十個所の内或は一二光力微弱なりと思  
 考すべきものある可し是等は其必要に

示すに以て其の船が計士には勝劣あることを認め、既にその計畫を立てつゝあることを經に附記し置く可し

講　談

大岡越後傳吉

「一着者、杉の大太から出ましたや。金アツッ、さうか何可うです。大きな摩を出して」金「エイ、こりやアおいらい」とだ、花魁ばらんとてした、昨夜乃公は酒に酔ひ狂ふたところを、この火柱の上へ五丁五十兩の金子が紛失したといふ事がある、若し三番屋四郎左衛門の二階で五丁五十兩の金子が紛失したといふ事があつたらば、此の火柱の上へ五

之に關する忠告又は注意を受くるは當局者の最も冀望する所なり然り而して彼記事と見るに事實を擧ぐるに敢てなくして全文怨言的句調を以て滿さる其眞意の果して那邊にあるやと疑はざるを

第三十四回 旭堂南渡露  
 金「ナアーに、五十兩の金子なんだから  
 五十兩もへりやアそれで宜いのだ、  
 種類は何もへりやない、何うせ此處へ  
 持ふのだから、傳へ」それでは、只今持て  
 だ可「うれ御覧なさい、だから貴所のや  
 十兩の金子を數に置いたのに、傳氣  
 が着てその金子を乃方ア廢るとさきにボ  
 ンと夜暮の中へ放り込んだのを今や子  
 と思ひ出した、それ／＼、その金子つ  
 ぱと知れると三浦屋の名前に觸は  
 ず、金子の紛失したといふことは五  
 十兩や百兩の金子に替へられ、三浦  
 の址屋へございます金「成はて傳へ  
 から金子は何れ出る、ものと心得、貴所

得ず假令は巨文島燈臺の如きは光力は  
僅に二十二海里の遠距離に達し現に晴  
天の夜に當りては其閃光牛島より望見  
するを得るに拘はらず筆者は螢の不  
動と謂へり但如何に光力偉大なるもの

金持ちますから、何ぞれ騒ぎにならぬやうに願ひます。三浦屋の二階で金子が娘を失たしと言はれては誠に困りますから金「イヤ」と言へば前が預かつて居てくれたのなら安心だ、矢張り御意見殿に頼みますから、何ぞれ騒ぎにならぬやうに願ひます。三浦屋の二階で金子が娘を失たしと言はれては誠に困りますから金「イヤ」と言へば前が預かつて居てくれたのなら安心だ、矢張り御意見殿に頼みますから、

うに騒ぐものぢやありません、他の者が知つたこのやうに、平次郎が惡くて、貴郎が慰めるうちに、令嬢が逃しかつた乃公の思ひ違ひだらうい事をした併し傳吉が五十兩の金を預かつたのでございます、それ預け申した五百兩では駄目と聞きます。

御養分の直るやうに私は預かつたもので、五十兩の金子を持つて出ましたので、併しその金を持つて来すればそれで済みます、それ預け申した五百兩では駄目と聞きます。

と雖も、深霧雨雪或は禽鳥蛾虫等の俗  
のに一時其燈火を遮蔽せらるゝと無  
とせず此等は燈臺看守記事に登載して  
後日の證左に供するものなれば果して  
筆者の言の如き事實ありとせば其時月

限る。外の者と違て有難い。金「安心してくんねん。お花魁を驚てくれると、斯ういふ言まで」  
可「何ぞよ。金「安心してくんねん。お花魁を驚てくれると、斯ういふ言まで」  
到頭五十兩の金子は出た、この傳吉を  
九が火鉢の上に置いて聞達ひがあつち

らつて可「一度聞いて見なさい。金「さう仕  
やうか。オアイ一寸漢さんが黄紙の傳吉  
さんと呼んでくれんか」と呼びにやろ  
と傳吉が早速二階へやつてあり。傳「へ

名譽榮祿受領  
**キンペンバー**

廣 告

速確實に御取扱

醫製洋服御小賣  
諸官附舞用達

申候兼業

京城本町三丁目


大坂野村徳七代

理店 田中友吉商店 發電器(夕)

電話九三三

陶磁器卸小賣  
官製煙草元賣捌所  
上等東北販賣元

京域本町二丁目  
**肥** 陶榮商店



米國新式  
機械製造  
土管煉瓦壺

龍山居留民團 囑托


**龍山醫院**

(電話六〇三番)

本院は毎日（日曜及祭日を除く）午前九時より午後四時各  
専門醫に診療を依頼す

**松村和雨先生**の診療時間は午前九時より正午迄とす

各地雜貨店及藥店二販ス

 渡  
電話 一〇二八

IVC  
DES QN PATD

諸建築請負業  
ペンキ塗

店員入用  
太平町一丁目  
四成商店

水樂町二丁目赤間通り  
三

並書據の需用に應ず  
旭町三丁目月海隣  
柴田表具部  
主在 眞網島久  
眞網島久  
光水太郎  
電話五六八

不相變遷引立之稱乞

新荷着

表具部開業

惠顧屏風天井壁張及裁縫一切



夏の和樂園  
御料理 席貸  
高田家  
電九三七

SECRET

宋科理

宋科理 敬上

公函下

[illegible]

仁川港

-57-









